

ルニ該議定書ニハ單ニ適當ノ委任ニ依リ調印シタル旨記載シアリテ全権御委任状ヲ要セサリシヤノ觀有之又全権ノ御委任ニ必然隨伴スヘキ批准ノ交換ニ關シ何等ノ規定無之ニ付電報ヲ以テ在蘭佐藤公使ニ事情ヲ問合セタル結果全ク御委任状ヲ要セサリシ次第判明致候ニ付同公使ヲ經テ蘭国政府ヨリ右御委任状ヲ回収致候

元來本議定書訂結方ニ關シ最初蘭国政府ヨリ帝国政府ニ宛テタル照会中ニハ明ニ全権御委任状ヲ要スル旨ヲ記載シアリ當時本大臣ハ在本邦蘭国公使並ニ在蘭帝国公使ヲ經テ全権御委任状ナリヤ將又政府ノ委任ニテ可ナリヤ為念蘭国政府ヘ問合候處全権御委任状ニ相違ナキ旨回答有之候ニ付本大臣ノ奏請ニ拠リ全権御委任状御下附相成候次第ニ有之候處前頭ノ通り本件議定書調印ニハ全ク全権御委任状ヲ要セサリシモノニテ事態此処ニ至リシハ全ク蘭国政府ノ处置當ヲ得サリシニ由ルモノニ有之從而之ニ對スル蘭国政府ノ説明ヲ求ムル儀ニ付在蘭公使ヨリ上申ノ次第モ有之候得共

事態既ニ明白ニ付此上同政府ヲ窮追スルニモ及ア間敷ト存シ单ニ御委任状ヲ返附セシムル事ニ取計ヒ置候次第ニ有之候尙ホ委細ノ事情ハ別紙在蘭公使トノ往復等ニテ御承知相成度茲ニ全権御委任状御返送致候間可然御取計相成度此段申進候也

## 別紙

佐藤公使ヘ往電 四〇号 佐藤公使來機密 一五号

〃 〃 四三号 〃 〃 一六号

〃 〃 四四号 〃 〃 一八号

〃 〃 来電 四九号

〃 〃 五〇号

右ノ内訳文アルモノハ横文ヲ除キ和文ノミ訳文ナキモノハ横文ノミ写添付ス

註 別紙省略

## 第六章 第二回萬国平和會議ノ進行

### 第一節 開会及議題

二〇七 明治四年六月十五日 在海牙都筑大使(ヨリ)  
林外務大臣宛(電報)

第二回萬国平和會議開会式狀況報告ノ件

六月十五日 後五、一五 海牙發

六月十六日 前十、二十五 東京着

都筑大使

第二号

ヲ得ストスルニ仲裁裁判等ニ由リ其機會ヲ漸次減少スルコトヲ得又ハ戰時ニ於ケル規則等ニ依リ人道ニ裨益スルコトヲ得ヘク吾人ハ益々平和會議ノ事業ノ成功ニ精励尽力セラルヘカラストノ意ヲ述ヘタリ

二〇八 明治四年六月十九日 在海牙都筑大使(ヨリ)  
林外務大臣宛(電報)

會議第二回總會議事報告ノ件

六月十九日 後七、三〇 海牙發

林外務大臣

都筑大使

十五日午後三時蘭国外務大臣ノ議長ノ下ニ第二平和會議開会式アリ先ツ露國皇帝陛下ニ対シ敬意ト謝意ヲ表スル電信ヲ決議シ次ニ蘭国女皇陛下ニ対シテ同様ノ決議案ヲ議決シ在仏、露國大使「ネリドフ」氏議長ニ推選セラル蘭国外務大臣ノ演説大要ハ第一平和會議以來世界平和ニ対スル觀念ノ進歩セルコトヲ述ヘ「ネリドフ」氏ハ平和會議ノ事業ニ付テハ前途益々有望ニシテ假令戰争ヲ廢スルコト

第六章 會議ノ進行、開会及議題 二〇七 二〇八

十九日午後三時第二回總會ノ開會會議中重要事項左ノ通

## (一) 議事規則ヲ議定ス

(11) 委員会ノ組織其議事々項並会頭、名誉会頭及副会頭ヲ指定ス、委員会ノ數四アリ本官ハ第四委員会ノ名誉会頭ニ推選サレ之ヲ承諾セリ

(11) 右ノ外獨逸ノ議案電報第五号ニテ報告シ置ケリ右

議案ハ追テ委員会ニ於テ調査スルニ至ルヘシ英國ハ規定議題外隨時論題ヲ議案シ得ルノ權利アルモノトノ認定ヲ

求メタリ(減兵問題ナルヘシ)又米國ハ減兵問題及國債償却強制(ドラゴウ、ドクトリン)ニ關聯シ将来議案ノ

權利ヲ留保シタリ

(四) 長岡ハ平和會議書記官ノ一員ニ推選サレタリ

(五) 議事ハ秘密ニ附スルコトニ決セリ

(六) General atmosphere among the delegates seems to incline strongly in favor of neutrals and of intrenchment of belligerent rights.

六月廿一日 前一、〇〇 海牙發  
東京着

都筑全權委員

林外務大臣

都筑全權委員

第七号

委員會分課左ノ通

第一委員会

一、國際仲裁々判

二、國際審查委員会及之ニ關聯スル問題

第一委員会

一、陸戰ノ法規慣例ニ關スル制度ノ改良

二、敵抗行為ノ開始

三、一千八百九十九年ノ宣言

四、中立國ガ陸上ニ於テ有スル權利及義務

第三委員会

一、海軍力ヲ以テスル港、市街及村落ノ砲擊

二、水雷ノ敷設

三、中立港ニ於ケル交戰國艦船ニ適用セラルヘキ制度

四、一千八百六十四年ノ「ゼネヴァ」條約ニ規定セラレタ  
ル原則ヲ海戰ニ準用スルコトニ關シ一千九百六年ニ改訂  
セラレタル一千八百九十九年ノ條約ニ對スル増補

一一〇九 明治四年六月三十日 在海牙都筑大使(ヨリ  
林外務大臣宛(電報))

第一回萬國平和會議委員會分課報告ノ件

## 第四委員会

一、商船ヲ軍艦ニ改装スル件

二、海上ニ於ケル私有財產

三、猶予期期限

四、戰時禁制品

五、封鎖

六、拿捕シタル中立國財產ノ不可抗力ニ由ル破壊

七、海戰ニモ適用セラルベキ陸戰法規

前陳諸議案ハ仏文ナルニヨリ和文ニ反訳ノ上電報スベシ目  
下反訳中

一一〇 明治四年六月二十三日 在海牙都筑大使(ヨリ  
林外務大臣宛(電報))

第一、第二委員会ノ第一回會議ニ於ケル各國ノ  
提案報告ノ件(一)

六月二十二日 後一〇、一五 海牙發  
六月二十三日 後四、五五 本省着

都筑大使

第一号

一一一 明治四年六月二十六日 在海牙都筑大使(ヨリ  
林外務大臣宛(電報))

前同件(一)

六月二十六日 午後一〇、一〇 本省着

林外務大臣

第一五号

本日午後二時半第二委員会第一回開会仏國ハ陸上中立並ニ  
戰鬪開始ニ關スル議案ヲ提出スルコトヲ豫告セリ露國委員

第六章 會議ノ進行、開会及議題 一一〇 一一一

案ハ細目ニ關スルヲ以テ電報ノ必要ヲ認メズ墨西哥ノ提議

ハ單ニ強制仲裁々判ノ普及ヲ希望セルニ止マル審査所ニ関スル英独ノ提案ハ別電ニテ電報ス

二二二 明治四年六月三日 在海牙都筑大使(ヨリ)  
林外務大臣宛(電報)

第二回萬國和平會議第三、第四委員會ノ第一回  
會議ニ於ケル各國ノ提案並ニ戰時禁制品全廢案  
ニ対スル仏國ノ態度報告ノ件

六月廿五日 前一、四〇 海牙発  
廿六日 前九、五五 東京着

林外務大臣

都筑大使

第一四号

二十四日午前十時第三委員會開会

右委員會ニ於テ米國ヨリハ(都市砲撃)ノ件ニ關シ

独逸ハ赤十字條約ヲ海戦ニ適用スル千八百九十九年ノ條約ヲ改正スヘキコトニ關シ英國ハ器械水雷敷設及自動水雷ニ

關シ提議スル所アリ清國ハ赤十字社徽章ヲ無條件ニ採用スルコトヲ宣言セリ

同日午後二時半第四委員會開会

右委員會ニ於テ英國ハ他國ト特別條約ニ依リ戰時禁制品ノ

第一九号

六月廿七日 後九、四〇 海牙発  
本省着

林外務大臣

都筑大使

二二三 明治四年六月三日 在海牙都筑大使(ヨリ)  
林外務大臣宛(電報)

前同件並ニ「マルテンス」第四委員長ノ提案報告ノ件

(第二) 第四委員長「マルテンス」ハ委員會ノ議事進行ヲ助クル名義ノ下ニ左記ノ諸問題ヲ提出シテ議題ト為セリ

一 交戦国ガ商船ヲ軍艦ニ変更スルハ慣例上及ビ立法上ヨリ見テ許容スベキヤ

二 商船ヲ軍艦ニ変更スルニ當リテ交戦国ノ遵守スベキ合法的條件如何

三 敵國旗ヲ掲グル商船ヲ拿捕及没収スル権利ニ關スル現行ノ慣例ハ之ヲ維持スベキカ又ハ之ヲ廢止スベキカ

四 戰闘行為開始ノ際一方ノ交戦国ノ港内ニ滯在セル敵國商船ヲ拿捕及没収スルハ完全ナル戰闘行為ナルカ

五 右第四ノ商船ニ対シテハ載貨ノ有無ニ関セズ一定ノ期間内ニ限り開戦ノ當時ニ其碇泊セル諸港ヲ自由ニ出港スルノ権利ヲ認メザルベカラザルカ

六 戰時禁制品タル物件ノ通商ヲ禁止スル交戦國権利ノ根拠如何

七 法律上及事實上如何ナル範囲内ニ交戦國ハ前項ノ権利ヲ行使スルヲ得ルヤ

八 法律上及事實上如何ナル範囲内ニ中立國ハ右ノ権利ヲ

ヲ以テ追テ提案ヲ為スベシ

第六章 會議ノ進行、開会及議題 二二二 二二三

制度廢止ニ同意シ得ヘキコトヲ宣言シタリ拿捕船ノ破壊禁止若シ拿捕船ヲ捕獲審査所ニ導クコトヲ得サル場合ニハ之ヲ解放スヘキコトノ決議案ヲ提議シ商船ヲ軍艦ニ変更スル場合ニ關シ軍艦ノ意義ヲ確定スルノ案ヲ提出スヘキ旨ヲ宣言シタリ

米國ハ戰時禁制品ヲ除クノ外海上私有財産ノ押収及拿捕ヲ禁スルコト但シ封鎖ヲ破ル場合ハ此限ニアラサルコトニ關シ提議シタリ

本官ノ聞込ミタル所ニテハ戰時禁制品全廢ニハ仏國委員ハ不同意ナリト

## 第六章 會議ノ進行、開会及議題 一一四

一一六

### 九 戰時ノ封鎖ニ關シテハ一八五六年ノ巴里宣言ノ規定ヲ

変更スルノ要アルカ

一〇 有効ナル封鎖ノ破棄ニ關シテ一般ニ承認サレ居ル  
制裁ヲ條約内ニ規定スルハ望マシキカ

一一 戰時ニ於テ兵隊又ハ戰時禁制品ヲ搭載セル中立国旗  
ヲ掲ケル商船ノ破壊ハ國際法規上又ハ慣例上ヨリ禁止セ  
ラレ居ルモノナルカ

一二 不可抗力ニ依リ一切ノ中立捕獲物ヲ破壊スルハ現行  
法規上並ニ海戰慣例上不法ナリヤ

一三 沿岸漁船ハ其交戰國臣民ニ屬スル場合ニテモ適當  
(法?)ナル捕獲物タルヲ得ベキカ?

一四 陸戰法規慣例ニ關スル一八九九年條約ノ敵意ハ如何  
ナル範圍内ニ於テ海戰ニ適用スベキカ

林外務大臣

都筑金権委員

第一〇号

往電一一号前段(第一)仏國、獨國ヨリ陸上ニ於ケル中立  
者ノ権利義務ニ關シ左ノ議案ヲ提出セリ

第一條 中立國ハ其臣民ガ交戰國ニ對シ犯シタル行為ニ就  
テハ其自国内ニ於テ為シタルモノニ非ザレバ其ノ責ニ任  
セズ

第二條 中立國ハ其ノ版圖内ニ於テ交戰國一方ノ為メ戰闘  
部隊ノ編成又ハ徵募事務所ノ開設ヲ許容スルヲ得ズ但  
シ其ノ臣民ノ或ル者ガ交戰國ノ一方又ハ他方ノ役務ニ從  
事スル目的ヲ以テ国外ニ赴クコトニ就キテハ其責ニ任ズ  
ルコトナシ

第三條 中立國ハ其ノ臣民ガ交戰國ノ一方又ハ他方ノ為メ  
兵器彈薬並ニ軍ノ需用ヲ満タスベキ一切ノ物件ヲ供給ス  
ルヲ制止スルヲ要セズ

第四條 交戰國ニ抑留セラレタル俘虜ニシテ其版圖内ヨリ  
脱逸シテ中立國ニ達シタルトキハ該俘虜ハ其地ニ於テ自  
由トナル

### 独逸案

陸戰法規慣例規程増補條款第五款交戰國ノ版圖内ニ於ケル  
中立人ノ取扱

第六十一條 戰爭ニ参与セサル國ノ臣民ハ中立人ト見做  
ス

第六十二條 中立違犯ヲ為シタル場合ニ於テ中立人ハ交戰  
國ノ一方及ビ他方ニ対シ中立人タルノ資格ヲ失フ

左ノ場合ハ中立違反トス

(ア) 中立人ガ交戰國一方ノ利益トナルベキ行為ヲナセシ  
時殊ニ中立人ガ交戰國一方ノ軍中ニ於テ自ラ進テ勤務  
ニ服セシトキ(第六十四條第二項)

第六十三條 左ノ場合ハ第六十二條(ア)掲ケタル交戰國一  
方ノ利益トナルベキ行動ト見做サズ  
(イ) 交戰國ノ一方ニ為シタル諸供給(フルニチウル)又  
ハ承諾シタル公債ニシテ敵地又ハ敵ノ占領地ヨリ來ラ  
ザルトキ

(ア) 警察又ハ民政ニ關シ為シタル役務  
第六十四條 交戰國ハ軍事勤務ニ服セシムル為メ仮令其承  
諾アリタル場合ト雖トモ中立人ヲ徵用(ルフレエ)スル  
ヲ得ズ交戰國一方ノ軍中ニ於テ戰鬪顧問員タル資格ニ於

第六章 會議ノ進行、開会及議題 一一四

六月廿七日 後四、五〇 海牙発

六月廿八日 後七、三〇 東京着

△(欄外註記)  
les fournitures faites ou les emprunts consentis à  
une des parties belligérantes pour autant que ces  
fournitures ou ces emprunts ne proviennent pas du  
territoire ennemi ou occupé par l'ennemi.

第六十七條 一切ノ軍用取立金（コントリビューション、ド、ゲイル）ハ之ヲ中立人ヨリ徵發スルコトヲ得ス軍用取立金トハ戰爭ノ目的ヲ以テ特ニ徵收セラル、一切ノ取立金ヲ云フ從來ノ租稅賦課金及通行稅又ハ交戰國一方カ其占領ニ屬スル敵地ニ於テ地方行政ノ必要上特ニ賦課スヘキ取立金ハ軍用取立金ト看做スコトナシ

第六十八條 中立財產ハ軍事上必要ナル場合ノ外之ヲ破壊損廢又ハ毀損スルヲ得ス若シ之ヲ為シタルトキハ該交戰國ハ他ノ中立國臣民又ハ自國臣民ニ於テ均シク賠償ヲ受ク且ツ其相互的ナルコト明カナルニアラサレハ自国内ニ於テモ亦敵國內ニ於テモ賠償ヲ為スヲ要セス

第六十九條 交戰國ハ敵國內ニ於ケル中立國動產ノ使用ニ對シ自国内ニ於ケルト同一ノ賠償ヲ為スヘシ但シ該中立國ニ於テ相互ノ取扱ヲ為スコト明カナル場合ニ限ル右賠償ハ戰事ノ為メ敵國ニ於テ其國ノ法律ヲ以テ定メタル賠償ヨリ多額ナルヲ得ス

第七十條 交戰國ハ軍用ノ目的ヲ以テシ且ツ即金支払ニヨリ其國內ニ存在スル一切ノ中立動產ヲ買上又ハ使用スルコトヲ得敵國內ニ於テモ亦第五十二條ニ定メタル制限及條件ニ従ヒ前項ノ処置ヲ為スコトヲ得

第七十一條 中立船舶及其積荷ハ交戰國ノ版圖内又ハ敵地内ニ於ケル河川ノ航行ニ從事スル船舶ニアラサレハ交戰國ノ一方ニ於テ之ヲ買上又ハ使用スルコトヲ得ス賠償ハ買上ノ場合ニ於テハ船舶又ハ積荷ノ全価格ニ一割ヲ增加シタルモノナルヘク使用ノ場合ニ於テハ普通借船料ニ一割ヲ增加シタルモノニシテ且ツ即時現金ヲ以テ支払ヲ為スヘシ

第七十二條 軍事上ノ目的ヲ有スル使用ノ為メ特ニ生シタル中立動產ノ破壊又ハ損廢ニ對スル賠償ハ第七十條第十一條ニ定メタル原則ニ依リ処理セラルヘシ

（第二）仏國ヨリ提出セル戰鬪開始ニ關スル議案ハ左ノ通一、締盟國ハ締盟國間ノ戰鬪理由ヲ付シタル開戦ノ宣言又ハ條件ニ付戰爭ノ宣言ヲ有スル最後通牒ノ形式ニ於テ豫メ且ツ明瞭ナル通告ヲ為スコトナクシテ開始セラルヘシラサルコトヲ望ム

二、戰爭状態ノ成立ハ遲滯ナク之ヲ中立國ニ通知スヘキモノトス

一一五 明治四十年六月三七日 在海牙都筑大使（ヨリ） 林外務大臣宛（電報）  
露國提出國際審査案ニ關スル件

六月廿七日 海牙着  
六月廿八日 東京発

林外務大臣

都筑大使

第二二号

露國委員ハ巧ニ外觀ヲ裝ヘル形式ヲ以テ殆ト義務的ナル国（シケード・アンテルナシヨナル）ノ審査案ヲ提出セリ  
獨逸委員ハ無論同案ニ反対スヘシ

註 右ニ付シ六月二十九日寺内陸軍大臣ヨリハ

陸軍步兵大佐 大井菊太郎

陸軍省參事官 秋山雅之介

海軍大佐 伊藤乙次郎

海軍省參事官 遠藤源六

打合ノ件

第二回萬國平和會議ニ關スル取調委員會組織方  
明治四十年六月廿七日発遣

大臣

陸軍大臣 各通

平和會議ニ關スル委員會組織ノ件

第六章 會議ノ進行、開会及議題 二一五 二一六

二一七 明治九年六月三丸日 在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛(電報)

第二回萬国平和會議ニ於ケル秘密諸事項漏洩ニ

閑スル件

六月二十九日 後七、四〇 海牙発

林外務大臣 都筑全権委員

第二五号

會議ハ秘密ナリトノ取極ナルニ拘ラス議案其他議事ノ模様  
統々新聞ニ漏レツ、アリ右事務御取扱上御参考迄申上グ

都筑全権委員

二一八 明治九年七月七日 在海牙都筑大使ヨリ  
林外務大臣宛(電報)

各国提出ノ議案要旨報告ノ件

七月十七日 前一〇、二五 海牙発

都筑大使

第六四号

議案要領一

中立港内ニ於ケル交戦国軍艦ノ取扱ニ閑シテハ我が國及英國

スヘク又各國政府ハ右ノ裝置ヲ完成スルニ要スル充分ノ期間ノ間ハ從来ノモノヲ使用スルヲ得ルコトトスル露國案ナ

リ又曩ニ電報セル英國案中少クトモ一大船渠ヲ有シ云々ノ

港ノミヲ軍港ト同視スヘキコト、アルハ英國提案仏文ノ曖昧ナリシカ為メ意味ヲ誤レリ英國ノ真意ハ本項ニ軍港ト称

スルハ右ノ條件ヲ有スル港ノミヲ指スト謂フニ在リ尙ホ英國ハ一定時間後ニ無害トナル繫維ナキ触発水雷ヲ使用スルヲ得ストノ墮國ノ意見ノ外特ニ報スヘキモノナシ

四

商船ヲ軍艦ニ変更スル件ニ閑シテハ既ニ報シタル英國案及我提案ノ外墮伊蘭露米諸国ヨリ夫レーティマツ提案セルモ只タ公海ニ於テモ之レヲ変更スルコトヲ得ルコトセントセル露

國ノ態度ト一旦軍艦ニ変更セルモノハ戰争中之ヲ商船ニ復スルコトヲ得ル事ニ賛成セリ

五

中立國捕獲物破壊ニ閑シテハ既ニ報セル英國案ノ外露國ヨリ絶対的ニ破壊スルコトヲ禁スルハ海外ニ海軍基地ヲ有セサル國ニ對シテ不公平ヲ來ストノ理由ニテ拿捕セル中立船ヲ保管セントスレハ拿捕艦ノ安全ヲ害スル場合又ハ其作戦

案ノ外西班牙ヨリ二十四時間以上滯在スルコトヲ禁スルヲ原則トスル案ヲ提出シ又露國ヨリモ提案セリ其重ナル点へ交戦國軍艦ノ中立國ニ於ケル碇泊期間ハ中立國ノ定ムル處ニヨルコト交戦國軍艦ハ中立港ニ於テ乗員ノ生活ニ必要ナルカ又ハ航海ノ繼續ニ必要ナル糧食需品石炭ヲ積入レ及修理ヲ為スヲ得ルコトナリ

二

都市砲撃ニ閑シテモ既ニ報シタル外露國ヨリ陸戰法規第二十七條ノ規定ヲ米國案ニ追加スルノ提議ヲナシ伊蘭?西班牙ヨリモ各提案セリ其後以上五ヶ国合議ノ上一案ヲ提出セリ其要領ハ陸戰法規ノ規定ヲ持チ來レルモノナルモ却テ從來ノ諸国案ヨリモ不良ノモノトナリタルニ過キス特ニ報スヘキ程ノモノニアラズ

三

触發水雷沈置ノ件ニ就テハ既ニ報シタル外ブラジル西班牙獨蘭米露諸国ヨリ提案アリタリ主要ノモノヲ擧レハ戰場ニハ触發水雷(其種類ヲ區別セス)ヲ使用スルヲ得ルコトトスルノ一案ト触發水雷(繫留、浮流共ニ)ハ成ルヘク繫維ヲ離レタルトキ又ハ一定時ノ後ニハ無害トナルノ裝置ヲナ

七月十八日 後八、一〇 本省着

都筑大使

(続キ)

六

海上ニ於ケル敵ノ私有財産不可侵ノ件ニ閑シテハ既ニ報セル米國ノ提議ノ外墮伊及丁<sup>ティマツ</sup>抹<sup>タウ</sup>ハ好意的宣言ヲナシブラジルハ米國案ノ通過セサル場合ニ應スルタメ陸戰法規ノ規定ヲ海上私有財產ニ適用スルノ提案ヲナシ蘭國ハ中間提議トシテ戰争中之ヲ軍艦ニ変更セサル事ニ閑スル官ノ宣言書ヲ与ヘアル商船ハ之ヲ拿捕セサルコトトスルノ案ヲ出シ白耳義ヨリモ大体敵船及敵貨ハ之ヲ抑留スルヲ得ルモ戰争後現持主ニ返還スヘク拿捕國ニ於テ之ヲ使用又ハ破壊セル時ハ後ニ其損害ヲ賠償スルコトスル主意ノ案ヲ出セリ又仏國ハ交戦國カ拿捕ヲナセル軍艦ノ乗員ニ拿捕物ノ一部ヲ分与スルノ例ヲ廢スルコト及拿捕セラレタル結果損害ヲ受ケタル個人ニ對シテハ其所屬國家ヨリ幾分ノ補償ヲ与フルノ手段ヲ取ルヘキ事ニ閑スル希望ヲ表彰スル案ヲ提出セリ

戦時禁制品ニ闕シテハ先ツ独乙ヨリ提案セリ其要旨ハ武器及ヒ戦争ノ用ニ供セラルヘキ材料ヲ絶対的禁制品トシ

戦争ノ用ニ供スルヲ得ヘキ物件材料ニシテ敵軍ニ仕向ケラレタルモノヲ條件付トシ交戦國ハ禁制品ノ品目ヲ公示シ又ハ中立國ニ通知スヘク禁制品ハ没収シ持主又ハ船長カ禁制品ノ存在ヲ知リ及ヒ禁制品カ全載貨ノ半数以上ニ上ルトキハ船舶ヲ没収ス開戦ノ事実ヲ知ラサルモノハ之ヲ拿捕セス又軍隊ヲ搭載スル船舶ハ其持主又ハ船長カ軍人タルコトヲ知レル場合ニ没収シ個人タル軍人ヲ輸送スルモノハ之ヲ輸送スル為ニ航海スル場合ニ没収スルニアリ仏國ヨリモ提案セルガ要旨ハ絶対禁制品ノ品目ヲ列挙シ之ヲ搭載スル船舶ハ拿捕ニ抵抗セルトキ及ヒ持主又ハ船長カ禁制品ノ性質ヲ知リ得ヘキ時ハ船舶ヲ没収シ條件付ノモノハ交戦國ニ於テ之ヲ中立國ニ通知シタル後之ヲ禁止スルヲ得ルコトトシ又領海ヲ有セサル敵国ニ対シテモ尙ホ海上禁制品輸送ノ事実タルコトヲ認ムルニアリブラジルヨリモ提案セルカ禁制品廃止ニ闕スル英國宣言ノ成立セサル場合ニ応スルトノ主意ニテ極メテ制限的ノモノナルモ特ニ報スルノ要ナシ又米国ヨリハ絶対的及ヒ條件付禁制品ノ概括的定義ト兵器弾薬

以外ノ物件糧食ハ中立國ニ通知シタル後ニアラサレハ拿捕セサル事ニ闕スル提案ヲナセリ

海上ニ於ケル郵便信書ノ保護ニ闕シ独乙ヨリ提案セリ要旨ハ郵便信書ハ交戦者ノモノト公私如何ヲ問ハス總テ不可侵トシ郵便船ハ一般商船ト同一規定ニヨリ処分スルモ臨検ハ可成之ヲ行ハス若シ之ヲ行フ時ハ最大ノ注意ヲナスヘシト謂フニ在リ

封鎖ニ就テハ伊國ヨリ提案セリ封鎖ハ實際上通過ヲ禁スルニ足ル実力ヲ以テ且ツ出入スル船舶ニ危険ヲ与フル如ク海軍力ヲ配置シ之ヲ維持スヘキコト荒天ノ時ハ一時封鎖船ノ去ルモ解除ト見ルヘカラサルコト宣言ニハ封鎖ノ開始ノ時其範囲及ヒ区域内ニアル中立船ニ対スル出港猶豫期間ヲ示スヘキコト宣言ハ封鎖地官憲及ヒ中立國ニ通知スヘク封鎖ヲ知ラスシテ來ル船舶ニ対シテハ現場ニ於テ告知スヘキコト封鎖犯ハ現場ニテノミ拿捕セラルヘキコト違犯船舶載貨ハ没収スヘキモ載貨ノ持主ニシテ違犯スルノ意思ナキ時ハ之ヲ免スヘキコト等ナリ

恩恵期間ニ就テハ露國ヨリ提案セリ要旨ハ開戦當時其港内ニアル船舶ニハ貨物ノ積卸ヲナシ出港シ本国港等ニ航スルヲ得サルモノ及ヒ軍事ノ必要上抑留セラレタルモノハ没収スルヲ得サルコト開戦當時海上ニアリタルモノニモ恩恵

期間ヲ与フベキモ軍事上必要ノトキハ一時抑留スルヲ得ルコト等ナリ